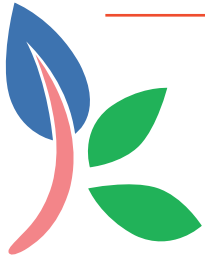


地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



# 京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



四方を山で囲まれた亀岡盆地は、「丹波霧」と呼ばれる深い霧がたびたび発生することで有名です。亀岡盆地の南側にそびえる竜ヶ尾山の山頂付近にある「かめおか霧のテラス」は2018年3月に開設され、深い霧が街を覆い尽くす幻想的な風景を一望できるスポットです。条件が揃った時にだけ見られる風景ですが、日夜の寒暖差の大きい時期に発生しやすいので、日中は暖かく朝晩が冷え込む秋から春にかけてがベストシーズンです。

## CONTENTS

|             |   |
|-------------|---|
| ■院長挨拶       | ① |
| ■医学教育への取り組み | ② |
| ■赴任医師紹介     | ② |
| ■診療科紹介 腎臓内科 | ③ |
| ■腎センターの紹介   | ④ |

|                           |   |
|---------------------------|---|
| ■京都中部総合医療センター<br>第23回学術集会 | ④ |
| ■小児のアレルギーについて             | ⑤ |
| ■部門紹介 臨床工学科               | ⑥ |
| ■京都中部総合医療センター<br>看護専門学校   | ⑦ |

|                            |   |
|----------------------------|---|
| ■心不全ケアチームを立ち上げました          | ⑧ |
| ■健診センターのご案内                | ⑨ |
| ■オンライン面会のお知らせ              | ⑩ |
| ■世界糖尿病デー<br>オンラインイベントのお知らせ | ⑩ |

地域医療支援病院 臨床研修指定病院  
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関  
地域周産期母子医療センター ヘき地医療拠点病院  
京都府地域リハビリテーション支援センター  
京都府災害拠点病院 (地域災害医療センター)  
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター  
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地  
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2021.10  
Vol.51  
秋号

## 病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

## 病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域医療支援病院として地域の医療、介護や福祉等との連携を推進します。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

## 患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

# 院長挨拶

## 秋涼に思う

院長 <sup>たつみ てつや</sup> 辰巳 哲也



今年も猛暑と局地的な大雨が続いた夏でしたが、ようやく朝夕に涼しくなり、心地よい秋風が吹く季節となりました。近隣の水田では稲穂が美しく黄金色に実り、稲刈りが始まりました。秋の夜長に虫の音が美しい音色で響き、季節の移ろいを感じます。コロナ禍の中ではありましたが、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も無事終了しました。今回のオリンピックは緊急事態宣言下のもと無観客にて行われた初のオリンピックとなり、ある意味異例づくめで歴史に残る大会となりました。コロナ禍での開催には賛否両論があるでしょうし「復興五輪」や「多様性と調和」と

いった当初掲げられたオリンピックのテーマがどこまで果たせたかも疑問が残る大会でした。一方でアスリート達の熱戦と歓喜の涙に我々も勇気と感動を頂いたと思います。

2021年7月から勢いを増した新型コロナウイルス感染症の第5波は感染力が強い変異株の影響もあり、これまでにない新規感染者数を記録しました。ワクチン接種が奏功し、今回の波では高齢者への感染は明らかに抑制されましたが、若年者から中高年層を中心に爆発的な感染とそれ以後に引き続く中等症や重症患者への対応に追われました。東京ではオリンピックの最中、まさに感染爆発が起こり感染制御不能状態となりました。京都府においても感染者はこれまでに急増し、一般確保病床をはるかに上回る新規感染者や重症患者の増加が危惧され、京都府下のコロナ受け入れ病院がさらに中等症病床を100床、重症病床を10床増床させて対応を図りました。一方、ホテルや自宅療養患者数も爆発的に増加し、病状の詳細な把握や急変時の対応に大きな課題が残りました。当院でもこれまでに経験したことがないような多数の感染者の受け入れと、中等症から重症患者への診療で緊迫した日々が続きました。

9月4日には京都中部総合医療センター学術集会を開催しました。当院職員による一般演題での発表6題の後、特別講演に国立国際医療センター国際感染症センター長の<sup>おおまがりの</sup>大曲 貴夫先生に「COVID-19感染症から学んだこれまでの総括と今後の展望」と題してご講演を頂きました。約230名のWEB参加で、活発な質疑応答ができましたことをこの場をお借りして心から御礼申し上げます。

大曲先生の講演から得た知見も含めた現時点での私見を述べさせていただきます。コロナの致死率は $\alpha$ 株であろうが $\delta$ 株であろうが明らかにワクチン接種で低下しています。それは京都府下でのワクチン接種対象者をみても明らかです。今のところ変異株と致死率に大きな差異はなく、医療の逼迫具合により致死率が上昇することが指摘されています。ゆえにワクチン接種をさらに進めて行くことや抗体カクテル療法を利用し、ハイリスク症例の重症化を防ぐことが必要かと考えます。感染制御の基本は市民の行動意識が大切であり、Universal Maskを続けながら、Withコロナ時代が続くことを念頭に置いた行動を続けていくことが肝要かと思います。今後、職場クラスターや学校が再開されることで子供達から家庭内でのクラスター、妊婦さんへのコロナ感染などの対応が課題とされています。感染爆発が生じると保健所機能も限界となります。地域の医療従事者が病院や診療所の立場を越え、互いに協力して地域住民の生命を守る行動がコロナ感染で苦しむ人々の希望となるでしょう。

最近、旬のイチジク（無花果）をよく食べています。“禁断の果実”とも言われ我々が食べているのは厳密には果実ではなく花にあたります。友人からなぜいちじくが好きなのか尋ねられることもあります。プチプチとしたいちじく特有の食感と上品な甘さに子供の頃の記憶が甦るからでしょうか。コロナとの戦いは続きますが、皆さまの秋が爽やかで実り多きものでありますように心よりお祈りしております。



# 医学教育への取り組み — 臨床研修指定病院として —

研修管理委員・消化器内科部長 かね まさ ひで とし 金政 秀俊

当院では京都府立医科大学医学生の診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）の受け入れをしています。医学生が医師になるための必修の実習で、医学教育の中で重要な位置付けをされた臨床実習です。本実習に参加する前に必要な試験を合格した学生のみが実習に参加しています。当院に配属された医学生は診療チームの一員となり、診療に参加する形で臨床実習を行い、医師としての知識、技能、態度を学びます。当院では各診療科での実習の他、当院独自の地域医療の現場での実習を加えて医学生に実りの多い実習になるように準備して行っています。今までに受け入れた学生は、全員真剣に実習に取り組んでおり安心してしています。忙しい病院業務の中、多くの職員に学生の指導、実習に協力してもらっています。大変な面もありますが、彼らが将来当院で地域医療の一端を担ってくれる日を楽しみに今後も続けていきたいと思っています。

## クリニカルクラークシップを終えて

京都府立医科大学医学部医学科6回生 たか き しゅん 高木 駿

私達は1ヶ月間、京都中部総合医療センターにて研修させていただきました。第1週と4週は救急実習や総合内科での実習などを通して地域医療の実際について学び、第2週と3週を各自で選択した診療科にて実習させていただきました。

この研修を通して感じたことは何とんでも地域住民の皆様との信頼関係の大切さです。

私は小児科にて2週間お世話になったのですが、先生方や看護師さん、コメディカルの方達は、患者さんに常に寄り添い、真摯で丁寧な対応をされており、目の前の患者さんをどうにかして助けたいという気持ちが感じられました。質のいい医療とは先進的な医療を提供することのみではなく、患者さんとの信頼関係の中で育まれていくものだと今回の研修を通して強く思いました。

とても充実した1ヶ月間を過ごすことができ、京都中部総合医療センターの皆様には大変感謝をしています。有意義な時間をありがとうございました。



## 赴任医師紹介

整形外科 医員 うめだ こういち 梅田 浩市

この度10月から京都中部総合医療センターに整形外科医として赴任いたします。出身は京都府北部の京丹後市ですので自然の多いこの地域に赴任でき嬉しく思います。整形外科医として半年間大学病院にて研鑽してきました。少しでもこの病院の力となれるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



## 腎臓内科

Nephrology

腎臓内科部長・腎センター部長 きむら たいこう 木村 兌弘



当院に腎臓内科が標榜されたのは2009年で当時医員は2名でした。その後徐々に医員が増加し、2021年時点で6名の常勤医師（うち1名は総合内科兼務）が在籍しており、急性期から慢性期の腎疾患診療及び透析診療を行っています。

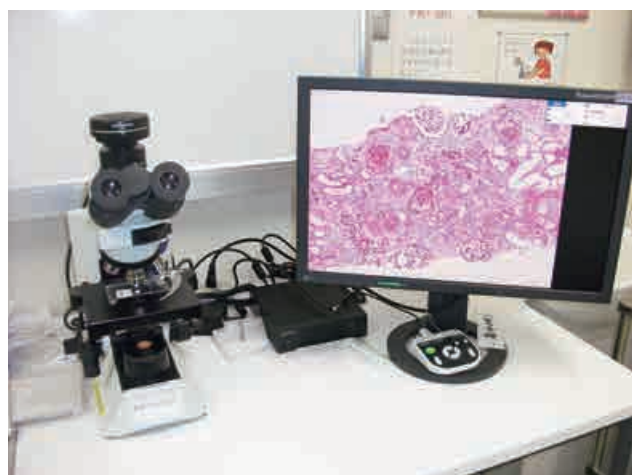
腎臓病は治らない病気ではないかと耳にすることがありますが、半分は正解です。では、どのような腎臓病が治るかというと急性発症の腎臓病です。血管炎を含めた自己免疫異常に伴う腎炎やネフローゼ症候群などがこれに当てはまり、早期に治療介入できれば腎機能低下を来さずに治癒させることも可能です。

一方で、慢性に進行した腎臓病は残念ながら治癒させることは困難ですが、腎機能増悪因子を特定し、是正できれば長期予後が見込まれる例もあります。薬剤性腎障害や腎動脈狭窄症などが当てはまります。実際は、病歴や尿検査から腎臓に何が起きているかを予測し、超音波やCTなどで腎臓の形態評価を組み合わせる治療方針を立てます。また各種検査でも診断がつかない場合や疾患の重症度を判定する必要がある場合は経皮的腎針生検（最短2泊3日入院）を行います。

ご自身の腎臓とともに健やかに社会生活が送れるようサポート出来れば幸いです。



腎生検の様子



腎臓組織の顕微鏡写真



## 腎センターの紹介

腎センター看護師長 もりかわ まゆみ 森川 真由美

当院では、おもに京都府南丹医療圏の約200名の患者さんに対して透析治療を行っています。現在56床（感染症対応ベッド2床を含む）のベッドを稼働し、血液透析・腹膜透析・血漿交換療法など幅広い血液浄化療法を行っています。また、下肢壊疽予防・シャントトラブルの対策・災害対策・透析器のメンテナンスや水質管理など、患者さんが安心して治療をうけていただけるよう多職種チームで取り組んでいます。

昨年からは慢性腎臓病の方を対象とした腎代替療法選択外来を行っています。複数ある腎代替療法それぞれの特徴を知っていただき、ライフスタイルや生活環境、ご自身の価値観に合わせた治療法を患者さん自身で選択できるよう情報提供や支援を行っています。透析を受けながらその人らしく生きることができるよう支援していきたいと考えています。それと同時に、少しでも保存期を長く過ごしていただけるような支援も行いますので、お気軽にご相談ください。



## 京都中部総合医療センター第23回学術集会

学術集会実行委員長・循環器内科部長 のむら てつや 野村 哲矢

2021年9月4日土曜日に第23回目となります京都中部総合医療センター学術集会を開催いたしました。未だ収束の気配が全くみられないCOVID-19感染症第5波の真只中ということもあり、昨年に続き今年も現地参加者を最小限に限定してwebを併用したハイブリッド開催となりました。

前半の一般演題の部では当院の各部門から6題の発表があり、症例提示や各演者が取り組んでいる課題の発表に対して活発な議論が交わされました。そして本会の目玉企画として後半の特別講演では、国立国際医療研究センターの大曲 貴夫先生にwebでご参加いただき「COVID-19感染症から学んだこれまでの総括と今後の展望」と題したご講演をたまわりました。大曲先生は東京都新型コロナ対策アドバイザーとして日々コロナ診療の最前線でご活躍されております。コロナ診療におけるご自身の数多くの経験と深い洞察力をもとに非常に分かりやすいご講演をいただき、今後の収束に向けた展望に関するお話は、日々コロナ診療に奮闘している現場の我々にも明るい未来を感じさせていただける内容でした。ご講演後のパネルディスカッションでは、亀岡市医師会の先生方や当院職員から矢継ぎ早に繰り出される質問に対して懇切丁寧にご回答いただき、用意した30分では全く時間が足りない状況でしたが、盛会のうちに会を終了することができました。

当日は230人を超える方々に視聴していただき、運営スタッフ一同心より御礼申し上げます。特別講演の中にもありました、この未曾有のコロナ禍の中でコロナ診療を確実にしながらも、病院機能を損なうことなく通常の診療業務体制を維持し続けることは、地域の拠点病院としての責務であることを病院職員一同改めて自覚し、今後の診療業務にますます精進してまいりたいと心を新たにしました次第でございます。



職員の一般演題



大曲先生の特別講演

## 小児のアレルギーについて



小児科部長 木原 明生 き はら あき お

お子様のアレルギーのことでご心配になられたことはないでしょうか。小児のアレルギー疾患には大きく分けて気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎の3つがあります。アレルギー疾患は環境や遺伝など様々な要因で発症します。治療にはご家族の協力がとても大切です。

気管支喘息は発作的な息苦しさや長く続く咳の原因になります。強く症状が出ているときは症状を抑える治療が必要で、ときには入院治療が必要なこともあります。また、そのような症状を繰り返すお子様には予防治療が必要になります。予防治療には内服薬のほか最近では吸入の薬もよく使われます。吸入の薬は効果的で副作用が少ないものが多いのですが、上手に使用しないと効果が出にくいという特徴があります。当院の小児科では吸入薬の使用方法について丁寧に説明をさせていただいています。



食物アレルギーでは原因となる食事を制限する必要があり、さらに誤って食べたときに強いアレルギー症状を起こして場合によっては命にかかわることもあります。ところが最近では研究が進み、食べられなかった食べ物を少しずつ食べていくことにより食物アレルギーを克服できる可能性があることが分かってきました。ただし、食べる量や方法は医師と相談して決めなければ強いアレルギー症状を誘発する可能性があり危険です。食べられるかどうかを判断したり食べる量や方法を決めたりするには食物負荷試験が必要です。当院ではこの食物負荷試験を積極的に行っていますので、お困りの方はご相談ください。



最後にアトピー性皮膚炎についてです。かゆみを伴う湿疹を繰り返す皮膚の病気ですが、食物アレルギーが関係している場合もありますので、それらを判断したうえで塗り薬の使い方や食物制限とのバランスをとりながら治療を進めることが大切です。ステロイドの塗り薬も使用しますが、保湿剤などの他の塗り薬と組み合わせて上手に使用すれば副作用で困ることはまれです。

当院の小児科では救急診療などで小児の急性疾患に対応しておりますが、一方でアレルギー疾患や腎疾患、内分泌、神経疾患など慢性疾患の専門外来も設けています。お困りの際には一度ご相談にいらしてください。



# 臨床工学科

臨床工学技士長 かわ さき じゅん いち 川崎 潤一

## 臨床工学技士 (CE: Clinical Engineer) とは

私たち臨床工学技士は生命維持管理装置を中心とした医療機器の専門職で、チーム医療の一員として医療機器を用いて検査や治療などを行っています。その他、院内のたくさんの医療機器が安心して使用できるように、日々メンテナンスを行っており安全性の確保と有効性の維持に努めています。

当院には16名の臨床工学技士が在籍しており、いつでも高度な医療機器が使用できるよう24時間365日緊急対応可能な体制を確立しています。地域医療を支える中核病院の職員の一員として、チーム医療の中で患者さんが最善の治療を安全に受けられるように努めてまいります。

## 主な業務内容の紹介

### ■ 循環関連業務

心筋梗塞や狭心症などの治療を行う心臓カテーテル室では心電図や心内圧の解析装置の操作、血管内画像検査装置 (IVUS・OCT)、補助循環装置 (IABP・ECMO) などの操作を行います。また徐脈や頻脈治療するためのペースメーカーや植込み型除細動器などの作動チェックや適正な設定変更なども行っています。



### ■ 呼吸関連業務

肺の働きが弱り、呼吸が十分にできなくなった状態の時には呼吸を代行するために人工呼吸器を装着します。当院は8種類の人工呼吸器を有しており、私たちはそれらを操作し駆動状況の点検を行っています。またRST (呼吸サポートチーム) の一員として、他職種の方々と協力して患者さんの早期離脱を目標に活動しています。

### ■ 血液透析業務

血液透析とは、人工的に体内の余分な水分や老廃物を取り除き、血液をきれいにする働きを腎臓に代わって行う治療です。血液透析を行うには大掛かりな医療機器設備が必要です。当院では56床 (感染症対応ベッド2床を含む) のベッドで治療を行っており、穿刺から機器管理まで幅広い業務を行っています。



### ■ 手術室業務

手術室では麻酔器、血行動態モニター、電気メス、内視鏡システムなど多くの医療機器を用いて手術が行われています。また当院ではロボット支援下手術 (da Vinci Xi) を導入しており、臨床工学技士もそのチームの一員として参加しています。



### ■ 機器管理業務

様々な分野で使用される医療機器を安全かつ有効的に使用できるように日々メンテナンスを行っています。また1台1台に「機器カルテ」を作成し機器の状態を管理しています。

### ■ 医療機器に関する研修会の企画・開催

現代では院内の様々なシーンで多種多様の医療機器が使用されています。その中にはボタン一つで操作が可能なものから、使い方がとても煩雑なものまで存在します。そのため臨床工学技士は新入職者へ簡便な機器の基本的な使い方の説明から、高度な医療機器の研修まで様々な要望に応えながら講習会の企画・開催を行っています。

## 就任のご挨拶

専任教員 なかい み ゆ き 仲井 美由紀

私は本校卒業後、看護師として勤務してきました。この度縁あって母校の教員となれたことを大変うれしく思っております。これまでとは違う角度から看護を見つめ、新たな気づきや発見ができることに改めて看護の魅力を感じています。至らない点も多々あるかと思いますが、学生が充実した日々を送れるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



## 初めての技術試験を終えて

だいどう ま お  
1年生 大道 茉乙

技術試験は想像以上に厳しく、ペアの人と練習をしっかりとしないと受からないなと思いました。クラスメイトたちの完成型を見て自分たちと何が違うのかを観察し、共有することで新しい知識が身につくことも学びました。合格できるまで先輩や先生方の指導をいただきながら、友達と一緒に練習にはげみました。技術試験は、技術を身につけることだけでなく仲間との絆が深まる場だと思いました。



とりおく ち ひろ  
1年生 鳥奥 千尋

「シーツにしわがなく、くずれにくいベッドをつくること」を目標に、初めての技術試験を受けました。先生のサポートをいただきながら、昼休みや放課後を利用し練習を重ねました。なぜ、しわのないくずれにくいベッドにするのか、すべての動作に根拠があることを理解し、シーツ交換の大切さを学びました。患者さんは多くの時間をベッドで過ごされます。快適な場になるように今後も技術を磨いていきたいです。

## 高齢者模擬体験を終えて

の だ けい こ  
2年生 野田 恵吾

重りのついた高齢者体験の服を着て、ヘッドホン、ゴーグルを被り、聴覚、視覚の制限を行いました。視野が狭い事で恐怖感が増し、音や声もほとんど聴こえることもなく、どこか暗闇にいるような感覚になりました。浴槽に入るのにも足を上げる・曲げるの動作ができず転倒しそうになり、介助なしでは何もできない状態でした。この体験が終わった後には心身ともに疲労を感じました。この体験を通して高齢者の認知や身体機能を理解して援助を行なっていくことがどれほど重要なのかを再認識することができました。



しみず かい  
2年生 清水 海偉

私は重りや関節を固定する器具の入ったスーツや視界を悪くする眼鏡、音を遮るヘッドホンをつけて体験をしました。自販機でジュースを購入したり浴槽を出入りするなどの日常生活でも、肘や膝が曲がらないため身体全体を使わないと動けないようなことが多くあり、行動に時間がかかったりしてしまうことを身をもって体験しました。今回の体験を通して高齢者には日常生活での困難や危険が多く潜んでいることに気づきました。今回気づいた多くのことを実習や演習に活用しようと思いました。



# 心不全ケアチームを立ち上げました

## — 心不全パンデミックに備えて —

心臓リハビリテーション指導士・心不全療養指導士 たにもと あつのり 谷本 篤紀

新型コロナウイルス感染症の流行により、パンデミックという言葉が広く知られるようになりましたが、皆さまは「心不全パンデミック」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。本来「パンデミック」とは、感染症や伝染病が複数の地域や国にまたがって世界的に流行することを指します。そのため感染症ではない心不全に「パンデミック」という言葉は本来の定義からは外れますが、今後世界的に多くの方が心不全を罹患することが予想されているためこのような言葉が使われるようになりました。



心不全療養指導士認定

近年、生活習慣の欧米化に伴う虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）の増加や高齢化による高血圧や弁膜症の増加などにより、心不全患者さんは急増しています。現在の罹患者数は約120万人ですが、2030年には130万人に達すると推計されています。年間新規発症のがん患者さん（2018年約98万人）と比較してもかなり多いです。

心不全とは「心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」と定義されており、けっして予後が良いとは言えない病態です。心不全と診断されてからの5年生存率は約50%と考えられており、これはがん全体の5年生存率（2019年 67.9%）よりも低い値です。

心不全は発症しても適切な治療によって、多くは一旦改善します。しかし残念ながら心不全そのものが完全に治ることはなく、何らかの原因で再び症状を繰り返すことがあり（これを急性増悪<sup>ぜうあく</sup>と言います）、再入院に至ります。このように悪化と改善を繰り返しながら徐々に病態が進行していく中で命を落としたり、最終的には心不全の終末期と呼ばれる状態に至ります。

そのため、心不全の治療としては再入院に至った原因を正確に評価しそれを予防することが重要です。原因としては「塩分・水分制限の不徹底」「感染症」「治療薬服用の不徹底」「過労」「不整脈」「ストレス」などがあり、これらの中には患者さん自身で管理することが可能なものがあります。多くの心不全患者さんやそのご家族が、病気についての正しい知識と理解、急性増悪<sup>ぜうあく</sup>に対する予防を心がけていただければと思います。

このような心不全患者さんが急増している現状を踏まえ、昨年度当院の野村哲矢循環器内科部長を中心に院内の理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士、メディカルソーシャルワーカーのメディカルスタッフから構成される心不全ケアチームを立ち上げました。これは部門の垣根を越えたチーム医療で心不全患者さんに対する療養指導や働きかけを行い、再入院を可能な限り予防していくための取り組みです。

また今年度より日本循環器学会において「心不全療養指導士」認定制度が開始されました。この制度は心不全の発症・重症化予防のための療養指導に従事する医療専門職が、その目的のために必要な基本的知識および技能など、資質の向上を図ることを目指します。昨年実施された第1回目の認定試験では、全国で1,771名の合格者があり、当院の心不全ケアチームからは私を含め渡部智江看護師、坂本朱美薬剤師の3名が認定を受けました。

我々の心不全ケアチームはまだまだ試行錯誤を繰り返しながらのチーム運営ですが、今後も院内外を問わず、地域の心不全患者さんの力になれるように広く皆さまのご意見をうかがいながら精進していきたいと思っています。まだまだ至らぬところも多々ありますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

# 健診センターのご案内

健診管理棟1階の健診センターでは、病気の予防や早期発見のための健診をリラックスして受けていただけるよう、環境を整えております。

病気にかかると、そのための検査や治療によって、時間的・経済的・精神的に大きな負担がかかります。病気になる前にその原因を取り除くことの利点は非常に大きいと言えます。そのためには、健康管理や健康作りが必要ですが、これらは生活様式の改善が中心となります。

生活様式の改善とは、その人の生活観や価値観を変えることにもつながるため、その必要性や目的が分かっていなければ長続きしません。例えば肥満や喫煙を考えていただければ分かりやすいでしょう。当センターで、まず身体の評価から始めませんか。



## 人間ドックについて

人間ドックと、協会けんぽ生活習慣病予防健診を実施しております。  
本年12月から来年3月頃までは比較的空きがございますので、是非ご利用下さい。

### ■ 主な検査内容

尿検査、便検査、血液検査、心電図検査、肺機能検査、胸部レントゲン撮影、腹部超音波検査、眼科検査、聴力検査、胃透視または胃カメラ（どちらかを選択）、内科医診察

### ■ オプション検査

乳がん検査、子宮がん検査、前立腺がん検査、骨密度測定、ピロリ菌検査、腫瘍マーカー検査、アレルギー検査、脳MRI検査、全身MRI検査がございます。

## 健康診断について

雇用時の健康診断、定期健康診断、有機溶剤健康診断などを実施しています。労働者の方々の健康を支えるお手伝いをさせていただきます。

### ■ 定期健康診断

労働安全衛生法に基づく健康診断です。最低年1回以上の実施が定められています。

### ■ 雇入時健康診断

労働安全衛生法に基づく健康診断です。労働者を新規雇用される場合に必要な健診となります。

### ■ 特殊健康診断(有機溶剤健康診断、じん肺健康診断)

労働安全衛生法に基づく健康診断です。人体に有害な物質を取り扱う従事者の健康を守るための健診です。当院では一部の有機溶剤健康診断と、じん肺健康診断を実施しております。

お申し込み

### 人間ドック・協会けんぽ生活習慣病予防健診

お電話 0771-42-2566 (健診センター直通)  
受付時間：平日午前9時から午後4時まで  
Web 当院ホームページから予約できます。  
24時間お申し込みが可能です。

### 各種健康診断

お電話 0771-42-2510 (代)  
健康診断受診の旨をお申し出下さい。  
受付時間：平日午前9時から午後4時まで



## オンライン面会のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者さんとの面会は原則禁止とさせていただいております。そこで、オンラインミーティングアプリ「Zoom」を利用したオンライン面会を9月より開始しております。

お手持ちのスマートフォンやタブレット等を利用してご自宅からのオンライン面会が可能となります。お気軽にご利用ください。



### オンライン面会接続開始時間

①15時15分～ ②16時15分～

各1組、平日（月～金）

面会時間は1組10分以内、患者さんお一人につき週1回とさせていただいています。

### 予約方法

お電話にて申込をお願いします。院内で面会調整後に面会の可否について連絡を差し上げます。

予約受付電話番号：**0771-42-2510（代）** 予約受付時間：10時～16時（平日）

担当：総務課デジタル推進係

詳細については当院ホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。

## 世界糖尿病デー オンラインイベントのお知らせ

当院では、11月の世界糖尿病デーに合わせて、糖尿病診療に関わる医療従事者の皆様を対象にオンライン講演会を開催いたします。「明日から役立つ」にこだわった演目です。一般の方でも興味がある方はぜひご参加お待ちしております。



**日時** 2021年**11月12日**（金）17:30開始

### プログラム

1. 「楽しくおやつを選びませんか？」 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 西川 悠
2. 「日本糖尿病療養指導士（CDEJ）資格を取得して」 看護師・日本糖尿病療養指導士 川崎 結香
3. 「血糖測定器”リブレ”の活用について」 京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学 西條 優斗先生

### 参加方法

オンライン会議アプリZoomで配信します。（参加費無料）

左のQRコードまたは下記URLよりご参加ください。

<https://zoom.us/j/95515949437?pwd=Njh3Q0Y4SWZOdll4a2lVbUJJaUFdNdz09>

ウェビナーID：955 1594 9437 パスコード：641440



糖尿病委員会では、病院ホームページでも情報を発信しております。運動や食事など今後も更新していきますので是非ご活用下さい。

# かかりつけ医を持ちましょう

## かかりつけ医とは…

普段の健康状態を把握してしてくれる  
もっとも身近な「主治医」のことです。  
具合が悪くなったり、困ったときにはいっしょ  
に受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



かかりつけ医についてのご相談は

総合受付①窓口

- 地域医療連携室／電話0771-42-5061(直通)
- 受付時間／平日8:30～17:15

## 看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

◆看護師寮利用できます。(正職員)

月額4,000円(税込)

\*水道費込み

\*冷暖房・キッチン・バス・トイレ完備

〒629-0197

京都府南丹市八木町八木上野25番地

京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで



詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-chubumcdc.or.jp/nurse/>



## 編集後記

新型コロナウイルス感染症の猛威とは無関係に  
季節は春夏秋冬を繰り返し、稲穂輝く秋がやって  
きました。様々な行事が中止となり、不安な言葉  
ばかりが飛び交う日々の中で、虫の声や涼しい風  
の音が少しでも心を安らげてくれることを願いま  
す。地域の皆さんとともに、新型コロナウイルス  
感染症の終息を祈ります。

広報委員会 M.M.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行  
っておりますが、撮影のために一時的に外している場  
合があります。ご了承下さい。

